

60. 天蚕飼料樹エゾノキヌヤナギの古条挿木による苗木の生産

福島県蚕業試験場栽桑部・平成11年度福島県蚕業試験場年報

- 1 部門名 蚕糸一栽桑一育苗 分類コード 09-01-06000000
- 2 担当者 森田悦夫・土井則夫
- 3 要 旨

天蚕飼料樹エゾノキヌヤナギの苗木を挿木により生産する場合、穂木の採取部位、穂木の貯蔵およびポリエチレンフィルムの被覆効果を検討した。

2年生のエゾノキヌヤナギの古条を2月に採取し1ヶ月間冷蔵(5℃)した穂木と、3月に採取し直ちに使用する穂木をいずれも3月23日に挿木した。挿木時の芽の状況は2月採取穂木が冬芽、3月採取穂木が脱苞期である。穂木は基部から20cmずつ切断し、1本の古条から5～10本採取して用いた。挿木床は無マルチと透明マルチの2種類作り、縦、横20cm間隔で挿木した。

試験区は貯蔵穂木の無マルチ区と透明マルチ区、採取後即時使用穂木の無マルチ区と透明マルチ区の計4区とした。調査は平成11年10月21日に活着率、枝条数、最長枝条長を調べた。

この結果、各区とも活着率は100%で、穂木の貯蔵およびポリマルチの有無による差は無く良好であった。また、穂木の採取部位においても活着率に差は無く、基部から10本目までいずれも100%の活着率であった。しかし、発条数については上部になるほど少なくなる傾向がみられた。

以上から、エゾノキヌヤナギの苗木を古条挿木により育成する場合、穂木の貯蔵およびポリマルチは特に必要がないと考えられた。また、穂木の採取部位は条の先端に近い部分まで使用可能であるが、発条数を多く確保するには下部が適していることが認められた。